

事例番号:350257

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第二部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 39 週 2 日 陣痛発来のため入院

4) 分娩経過

妊娠 39 週 3 日

5:14 経膈分娩

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:39 週 3 日

(2) 出生時体重:3100g 台

(3) 臍動脈血ガス分析:pH 7.25、BE -4.4mmol/L

(4) アプガースコア:生後 1 分 9 点、生後 5 分 10 点

(5) 新生児蘇生:実施なし

(6) 診断等:

生後 5 日 退院

生後 9 ヶ月 右不全片麻痺と診断

(7) 頭部画像所見:

生後 9 ヶ月 頭部 MRI で孔脳症の所見

6) 診療体制等に関する情報

(1) 施設区分:診療所

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医 2名

看護スタッフ:助産師 1名、看護師 1名

2. 脳性麻痺発症の原因

(1) 脳性麻痺発症の原因は、孔脳症であると考ええる。

(2) 孔脳症の原因および発症時期は不明である。

3. 臨床経過に関する医学的評価(2020年4月改定の表現を使用)

1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

2) 分娩経過

(1) 妊娠 39 週 2 日の入院時の対応(分娩監視装置装着、内診、バイタルサイン測定、血管確保)は一般的である。

(2) 妊娠 39 週 3 日の分娩監視方法および判読と対応は、いずれも一般的である。

(3) 妊娠 39 週 3 日の破水後に、超音波断層法を実施したこと、および超音波断層法で胎児心拍数 80-90 拍/分が認められた際の対応(酸素投与、胎児心拍数の回復を確認し経過観察としたこと)は、いずれも一般的である。

(4) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。

3) 新生児経過

出生時の対応およびその後の新生児管理は一般的である。

4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

なし。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

孔脳症の原因究明を推進することが望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。